

私が剣道を続ける理由

愛知県

洗心道場

小学6年

猪飼 結

私が剣道を始めてからもうすぐ八年がたちます。きっかけは兄二人が先に道場に通っていたからでした。私が初めて道場に来たのは一歳を過ぎた頃で、その頃はいつも座布団の上で稽古が終わるまで寝ていたそうです。

三歳を過ぎたころ、私と同じような年の子どもたちが剣道を習い始めているのを見て、私もやってみようと思い、母にお願いして、師範長のところへ一緒に入門のお願いに行きました。先生は「自分からやりたいと言ったのだから、しんどくても続けないとだめだぞ」とおっしゃっていたそうです。

初心者頃は、できることがどんどん増えていき、毎日がとても楽しかったです。先生方からもよくほめて頂き、面をつけるのを楽しみにしていました。ところが、防具をつけ、先輩方と一緒に稽古をさせて頂くようになると、そんな楽しい毎日ががらりと変わりました。道場では、初心者も経験者も全員同じ稽古をします。切り返しや追い込みなど遅れずについていくので精一杯でした。面もうまくつけられず、すぐにずれてしまい、しんどくて気持ち悪い上に、「声が小さい!」「遅い!」と叱られます。剣道が楽しいという気持ちはあつという間にしぼんでしまいました。更に、自分を嫌な気持ちにさせたのが試合でした。勝っても負けても叱られます。いつの間にか試合をするときに叱られることばかり考えるようになり、すっかり試合が嫌いになっていました。

昨年から今年にかけ、コロナ禍の大変な状況の中、長い間稽古ができず、たくさんの試合が中止になりました。道場の友だちと会えなくなり寂しい気持ちはあったものの、嫌いな試合がなくなってホッとしていたところもありました。

六年生になり、ぼつぼつ試合が開催されるようになりました。貴重な機会なのに、私は後ろ向きな気持ちのまま稽古や試合に参加していました。

ある日、部内戦で私はほとんどの相手に負けてしまいました。その日の稽古が終わり、整列をした際、私は先生から名指しで叱られてしまいました。「やる気がないんだったら全国大会も辞退しろ。他のメンバーに迷惑だ」ととても恐ろしい顔で言われました。帰りの車の中の母の顔も恐ろしかったです。「私が監督でも同じことを言った」と言われました。「結はなんのために剣道を続けているの?」と聞かれました。「先生方はなんで剣道を続けていると思う?みんなが強くなって試合に勝って喜んだり、人間として成長したりしていくのを見るのがうれしいから一生懸命続けてくれている。結はそういう相手の気持ちを考えたことがある?」と聞かれました。そう言われて初めて、先生方がどうして私を叱るのか考えました。そして、自分が剣道を続ける理由も考えました。稽古はしんどいし、試合で負けたり叱られたりするのは気持ちが落ち込む。だけど、いい試合をして、先生方や周りの人が喜んでくれるのを見るとうれしい。そうか、私は剣道を通じて身近な誰かが喜んでくれるのがうれしかったのだと思い出しました。

「継続は力なり」という言葉があります。先生はよく「剣道は勝つのも難しいけれど、続けるのが一番難しい」という話をされます。何十年も続けてこられた先生方のことを考えると、とても尊敬します。ただ続けるだけでなく、目標や夢をもって続けてこられたことが素晴らしいのだと更に気づきました。

いままでなんとなく剣道を続けてきた私ですが、初めて自分の目標をつくって続けていこうと考えるようになりました。私にとって剣道を続けること、「継続」は、ご指導くださった先生方への「恩返し」であり、続けることによって、自分の「自信」につながっていくと考えるようになりました。これからの自分に自信がもてるよう、目標をもって稽古を続けていきたいと思えます。